

1. 背景

アジア太平洋地域生物多様性保全にかかる次世代人材育成事業の一貫として、日本環境教育フォーラム、バードライフ・インターナショナル東京、コンサベーション・インターナショナル・ジャパンの3団体協働による SATO YAMA UMI Project が行われている。今回私は本プロジェクトの一つのターゲットであるニューカレドニアの「マンタ・イニシアチブ」にユースインターンとして参加した。ここに現地での活動結果を報告する。

2. 目的

- ・マンタの生態解明のための調査（生息地、餌場、行動経路、繁殖など）
- ・能力開発（大学、水族館、ダイビングショップと協働し意識向上と能力開発）
- ・コミュニケーション（水族館、SNS、ダイブショップを介して普及啓発、教育）

3. 活動内容

- ・海洋フィールド調査（マンタポイントでのダイビング、新マンタポイント開拓）

1週間の内、2,3日はフィールド調査日であった。フィールド調査は4,5人のチームで行われ、現地大学、水族館、CI スタッフからのメンバーで構成されている。船や機材は主に水族館所有のものを利用していた。フィールドに出る前には天候、潮位、流れ、風を調べ、コンディションを確認する。マンタポイントでは、ドローンを飛ばし上空から一帯を探索する。海中では、視界がお互いに届くギリギリで横に列を作り、エリアを往復して探索する。マンタに遭遇したら、腹部の写真/ビデオを撮影する。可能であれば、遺伝子サンプリングを行う。

- ・データ解析（写真による個体識別、データベース作成）

マンタの写真/ビデオは本プロジェクトチームで蓄積したものと、一般のダイバーから提供してもらったものの2つがある。ダイブショップへ直接ビラを配布し、FBなどのSNSを利用したデータ共有を呼びかけている。集まるデータは博士課程を取得中の現地大学生、CI オフィスが管理しデータベースに保存される。新しいデータはデータベースと照合する。本データベースは博士課程の貴重な研究資料として利用される。

- ・コミュニケーション（マンタガイドライン、データ蓄積呼びかけビラ、広報）

水族館、現地ダイブショップなどと協力し、マンタに関する普及啓発、教育、情報発信を行っている。FB (MantaTrust, Manta Initiative NC) でも情報発信をしている。

4. 結果

・フィールド調査

4週間の活動期間で私は10回フィールド調査(25回ダイビング)へ同行した。その内マンタと5回遭遇した(遭遇率50%)。ドローン、水中カメラを用いた撮影を毎回行った。人数不足のためこれまであまり行われていなかったが、マンタだけでなくスタッフの活動の様子も撮影することが出来た。また、本調査を初めてから9、10個体目となる遺伝子サンプリングに成功した。

・データ解析

2018年10月現在300を超えるマンタの個体識別用データが蓄積された。私の活動期間中に新しい個体を発見することは出来なかったが、私が撮影したデータはすべてデータベースへ共有した。フィールドへ出ない時は、データベースとの照合作業を行った。

・コミュニケーション

マンタに遭遇した際のガイドラインの翻訳、マンタデータベースへの情報提供呼びかけのポスター、マンタの性別の見分け方などの資料を作成した。ガイドラインは英語、フランス語、日本語が揃ったので、まとめて印刷し、各ダイビングショップに配布することになった。いくつかのショップへは資料を置いて利用してくれることが決まった。特に日本人が経営するショップ(ALIZE Dive Shop)とは今後も協力体制を依頼することが出来た。また、来年発売の日本のダイビング冊子の付録の作成に協力し、その中でマンタの生態や本プロジェクトを盛り込まれることになった。以上のことはFBやインスタグラムで広報されており、以前に作成した「ニューカレドニア～珊瑚海の母(英題: Mother of the Coral Sea)」はYoutubeで公開されている。

5. まとめ

今回はニューカレドニアという大洋州の国で1ヶ月間マンタのプロジェクトに関わることが出来た。公用語がフランス語ということで言語の壁があったが、現地で出会った同僚に度々助けてもらった。フィールドでは実際に海に潜ってマンタを追いかけ、写真/動画を撮影し、遺伝子サンプリングに同行することで、フィールド作業のスキルを学ぶことが出来た。陸ではプロジェクトのパートナーと協力し、マンタの教育普及啓発について考え、コミュニケーションやネットワーク構築、協働作業の現場を経験することが出来た。1ヶ月という短い期間であったが、首都ヌメアの街をじっくり観光することが出来、ニューカレドニアのカナック文化、ニッケル鉱山、バヌアツ、フィジー、タヒチなど他の大洋州地域の文化にも触れることが出来た。

今後も動物や環境の保全に関わっていきたいと考えており、今回のマンタのフィールド技術やコミュニケーション、ネットワークを活かして日本だけではなく、世界の保全プロジェクトに貢献していきたいと考えている。本プロジェクトでお世話になった方々、本当にありがとうございました。

6. 活動写真



ドローン撮影



遺伝子サンプリング



水中写真撮影の様子



マンタ写真（個体識別用）



水族館スタッフとの打ち合わせ



水族館での海、サンゴに関する教育セミナー



主なフィールド調査メンバー（左から）

- ・私
- ・大学博士課程（マンタトラスト）
- ・船長（水族館スタッフ）
- ・大学博士課程（調査の協力ダイバー）
- ・CI ニューカレドニア スタッフ

以上